

パブリックコメントの実施結果について

下記の案について、広くご意見を募集しましたところ、貴重なご意見・ご提案をお寄せいただきました。

ご意見・ご提案をいただいた方に厚く御礼を申し上げますとともに、今回いただいたご意見等の要旨及びこれに対する区の考え方を公表します。

1 実施概要

(1) 公表資料

「墨田区子ども読書活動推進計画（第5次）」（案）

(2) 募集期間

令和6年12月11日（水）から令和7年1月7日（火）まで

(3) 周知方法等

ア 実施の周知方法

(ア)区のお知らせ（令和6年12月11日号）

(イ)区公式ホームページ

(ウ)墨田区立図書館ホームページ

(エ)区立小中学校及び保育園等子育て関連施設でのポスター掲示

イ 公表資料の閲覧方法

(ア)区公式ホームページ

(イ)墨田区立図書館ホームページ

(ウ)各区立図書館、東駒形・梅若橋コミュニティ会館図書室

(エ)区民情報コーナー

(4) 提出方法

直接持込み、郵送、FAX及びEメール

(5) 提出先

ひきふね図書館

(6) 募集の結果

ア 意見提出者 3名

イ 意見総数 10件（趣旨が類似した意見については集約しています）

2 提出された意見等の要旨及び区の考え方

	ご意見等の要旨	ご意見に対する区の考え方
1	図書館以外の取組や本と触れ合える場等の情報が欲しい。	地域ぐるみの読書活動推進において、図書館以外の施設や団体等との情報共有や情報発信は非常に重要です。第5次計画においても、情報収集・発信に努めることとし、第3章5(1)の区立図書館・コミュニティ会館の役割における文章に以下の下線部分のとおり追記します。 「ボランティアや地域の関係団体等による図書館運営への企画参加や、施設等でのブックトークやおはなし会への協力等を進めるとともに、 <u>積極的な情報収集・発信に努め、地域ぐるみで子どもの読書活動を推進していきます。</u> 」

2	<p>ブックスタートや健診等の際に、現物を用いた本の紹介や動画等を活用し子どもにとっての読書のメリット等について説明するなど、わかりやすく伝える工夫が必要である。</p>	<p>子どもの読書活動推進には、家庭での保護者の理解と協力が必要不可欠なものとなります。第5次計画においても、保護者に対して、本の紹介や子どもの読書の意義やメリットについて、よりわかりやすい方法で発信することに努め、第4章3 各事業の概要における事業番号1101に以下の下線部分のとおり追記します。</p> <p>「また、<u>出産を控えた方や保護者に向けて、読み聞かせや本の選び方などの講座実施や子どもの読書の意義やメリットなど各種情報提供を、よりわかりやすい方法で行う。</u>」</p>
3	<p>学校図書館の情報発信（図書館だよりなど）が充実すれば、家庭での本の話題につながる。</p>	<p>家庭で本のことについて会話をすることは、子ども読書活動の推進にとって非常に重要であり、第5次計画では「家読（うちどく）」を積極的に推進します。その一環として、学校等とも協力しながら、家庭に向けた情報発信に努めます。第4章3 各事業の概要における事業番号1105に以下の下線部分のとおり追記します。</p> <p>「<u>おうち De どくしょ</u>ノートの配布や活用の啓発、<u>家庭に向けた各種情報発信を行い、身近な人と一緒に読書したり、互いに図書を紹介し合ったりする家読（うちどく）の推進を図る。</u>」</p>
4	<p>計画の文章のボリュームが多く、読むことが大変である。</p>	<p>時間がない保護者の方や、子どもにも計画の趣旨をわかりやすく伝えるため、「概要版」を作成します。</p>
5	<p>大人よりも友達のおすすめの本のほうが、子どもは興味を持ちやすい。学校で本を紹介しあったり、本を読み合う取組や、子ども同士で本の紹介ができる仕組みがあれば良い。</p>	<p>計画策定時に実施した子どものアンケートでも同様な結果が出ていることから、学校や各施設で子どもや職員による本の紹介を実施し、読書に関する情報発信の充実を図っていきます。</p> <p>（P44 事業番号1203に掲載しています）</p>
6	<p>学校や保育園において、予約が多かったり、手続きが煩雑であったりなど、読みたい本を借りるのに時間がかかることがある。</p>	<p>電子書籍の充実と積極的なPRにより、いつでも・どこでも本が読める環境の充実を図っていきます。</p> <p>（P46 事業番号2106に掲載しています）</p>
7	<p>読みたい本がわからない子どもが多い。チャート方式やAI活用などで、読みたい本にたどり着ける取組が欲しい。</p>	<p>パスファインダーやブックリスト、アニメや映画に関連付けた本の紹介など、様々な媒体を活用しながら、子どもに情報が行き届くよう更なる工夫を図っていきます。また、特別な配慮を要する子どもやその保護者には、読書相談や読書案内を行っていきます。</p> <p>（P43 事業番号1102、P44 事業番号1112に掲載しています）</p>

8	本を介して異世代間が交流できる取組があれば良い。	積極的に異世代間での読み聞かせや本の紹介などの交流を進めていきます。 (P50 事業番号3201に掲載しています)
9	学校の図書室の開放時間が限定的でもったいない。放課後など利用できる時間が拡充されることは大変良い。	引き続き学校と協力しながら、学校図書館の放課後利用について、推進していきます。 (P48 事業番号2205に掲載しています)
10	子どもの読書の推進には「個人で読む」という面だけでなく、「集団で読む」という面からのアプローチが必要である。	引き続き学校等と協力しながら、集団で楽しむ読書についても推進していきます。 (P50 事業番号3112に掲載しています)